

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

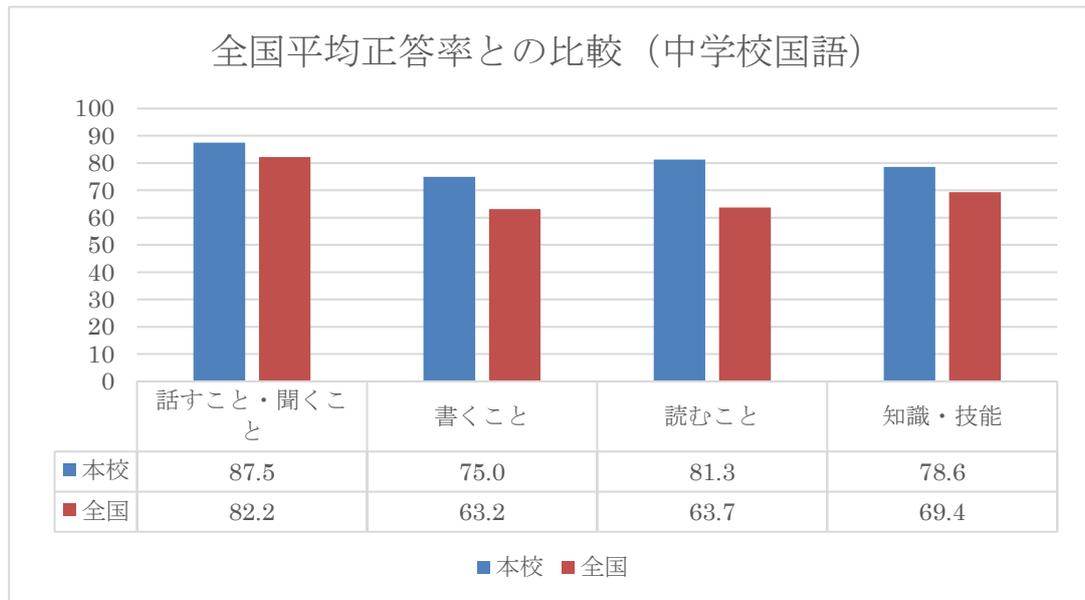
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

どの領域も、全国平均正答率よりも高い正答率でした。特に「書くこと」「読むこと」では、10ポイント以上上回っていました。また、無解答は、全問題でありませんでした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「書くこと」が全国平均正答率を11.8ポイント上回りました。これは、単元の終末に「書くこと」を含む表現活動を意図的に仕組んだり、苦手意識を払拭するために手立てをとったりしたことの成果が表れていると考えられます。また、「読むこと」も全国正答率を17.6ポイント上回りました。これは、ワークシートやICTを活用して個に応じた対応を行ったり、話し合いや学び合いを行ったりしたことが、より深い学びにつながったものと考えられます。

課題は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率を上げることです。正答率68.8%は、全国平均正答率67.5%を上回ってはいるものの、他の領域に比べると正答率が低く、苦手としている生徒が多いことがわかります。言葉について理解を深めることは、「知識・技能」を高めるだけでなく、「思考力・判断力・表現力」をより充実させたものにすることができます。単元全体を通して、それらを連動して高めていけるような授業へと改善していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

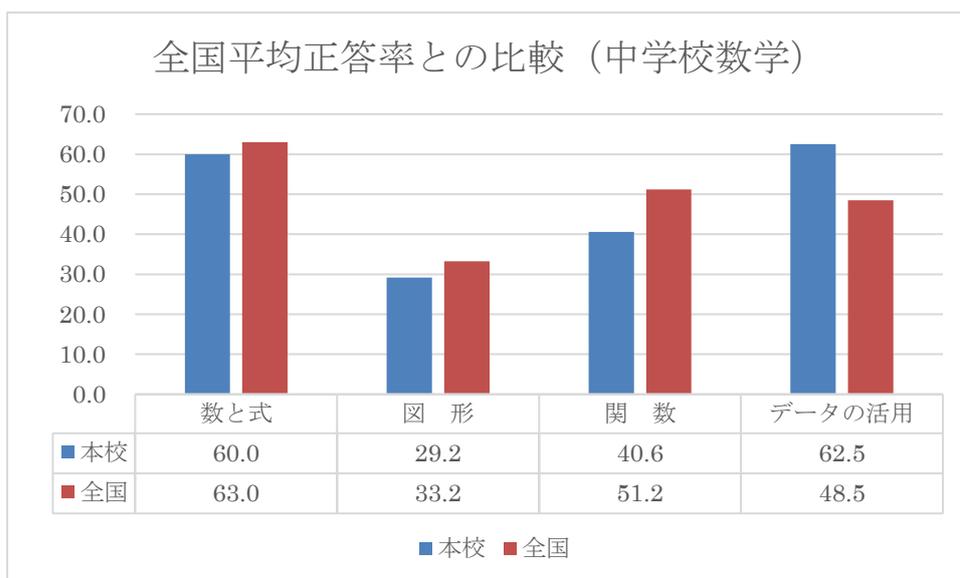
【学校では】

- 子どもが主体的に取り組むことができるように、単元の見通しがもてるように振り返りシートを工夫し、単元活動のゴールがわかるようにします。
- 漢字テスト、語彙テスト、文法等の小テスト等、自分の知識を確認できる機会を毎時間設定します。スキルタイムでも知識・技能に特化した課題に取り組ませ、定着を図ります。
- 表現活動の前に子ども同士が考えを交流する時間を持ち、その考えを深めたり広げたりできるようにします。また、定型文やヒントを提示するなど、手立てを工夫します。

【ご家庭では】

- 様々なジャンルの文章に触れる機会をもってほしいと思います。文章の内容を追うだけでなく、筆者はこの文章を通して読者に何を伝えたいのか、わかりやすく伝えるためにどんな工夫をしているのかを考えながら読むことは、読解力と語彙力を磨くことにつながります。
- わかりやすさだけを重視せず、時には子どもが日頃耳にしないような語彙をあえて大人が使うことが知的好奇心をくすぐります。その好奇心に応じることが、豊かな語彙につながります。

2 数 学



(1) 結果

「数と式」「図形」「関数」では、正答率が全国平均正答率を下回っています。特に、「関数」では、10.6 ポイント全国平均正答率より低くなっています。また、記述式の証明の問題で無回答が見られました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「データの活用」の領域の四分位範囲の意味を問う問題や、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を説明することができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 20 ポイント以上上回っていました。しかし、「関数」の領域の与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題が 20 ポイント下回っていました。

今後、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

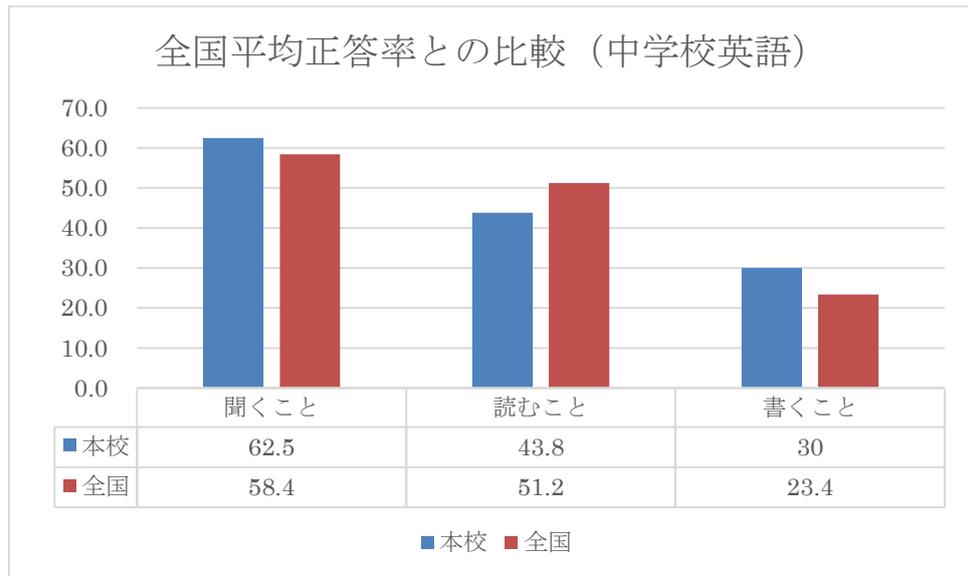
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、教科書の例題を説明させたり、式から生活場面を想起させたりしながら、自分の考えを表現する活動を充実させます。
- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れることで、自分の考えを式や言葉で、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ワーク、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのワークやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学を好きにするには、一人で解けたという喜びを実感する経験が有効です。そのためには、既習内容の確実な積み重ねが大事になります。授業後は必ず復習を行い、問題を繰り返し解いたり、計算力をつけたり、日々の努力を継続させてください。

3 英語



(1) 結果

「聞くこと」「書くこと」は、全国平均正答率を上回っていました。それに比べ、「読むこと」の対全国比が低くなっていました。英文を書き換える等の短答式の問題で、無回答が見られました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「聞くこと」の領域の情報を正確に読み取ることができるかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 10.6 ポイント上回っていました。また、「書くこと」の領域の社会的な話題に関して読んだことについて、考えたこととその理由を書くことができるかをみる問題の正答率は全国平均正答率を 18 ポイント上回っていました。一方で、「読むこと」の領域で、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかをみる問題は、課題が見られました。

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を理解し、整理して、適切に話したり書いたりするためには、話されることや書かれていること全てを理解しようとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で読み取ることが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにします。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した活動を取り入れ、言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください。（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています。）

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	87.5%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	37.5%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	75.0%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	62.5%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	62.5%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	87.5%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	87.5%	80.3%

朝食・起床・就寝等すべての項目について全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。今後も家庭と学校で協力して、継続していきましょう。

自己肯定感や規範意識の項目についても肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	12.5%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0.0%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	0.0%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.0%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	50.0%	18.0%
「30分より少ない」	25.0%	9.9%
「全くしない」	0.0%	6.0%

家庭学習については全国平均を下回っています。1日に2時間以上勉強している生徒がおらず、1時間未満の生徒が7割以上おり、中には30分より少ない生徒もいました。家庭学習など授業以外の学習時間を確保することは、学習内容の定着のためにも大切です。家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 定期テスト等の前は、学習計画表を作成し、計画を立てて、学習に取り組むようにしています。また、朝のスキルタイムの時間に5教科の学習や確認テストを行い、基礎学力の定着に取り組んでいます。委員会活動では学習クラスマッチを行ったり、図書館まつりを行って読書を推進したりしています。
- 毎週水曜日の放課後や長期休業中は学習会を行い、学習習慣の確立や基礎基本の定着を図っています。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習習慣の確立は、極めて大切なことです。規則正しい生活は、今できていることを今後も継続することを心がけてもらいたと思います。そして、ご家庭でも学習時間の確保をお願いいたします。自分で決めて、毎日の学習が習慣となるよう励ましてください。学習の成果が出て少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。